

## 平成29年度第1回七尾市総合教育会議 議事録要旨

1 日 時：平成29年11月24日（金） 16時から16時50分まで

2 場 所：七尾市役所5階 災害対策本部室

3 出席者：【構成員】

七尾市長 不嶋 豊和、

七尾市教育委員会

教育長 高 絹子、教育長職務代理者 山下 敏博、

教育委員 大森 重宜、教育委員 寺岡 卓子、教育委員 石川 武志

【事務局ほか職員】

総務部長 白田 剛、教育部長 浦辺 常寿、

教育次長兼教育総務課長 石川 利樹、学校教育課長 阿部 斉、

企画財政課長 楠 利勝、

教育総務課課長補佐 室塚 圭貴、七尾市小中学校校長会会長 倉田 利一、

企画財政課課長補佐 松田 直樹、企画財政課主幹 竹下 貴紀

4 議 事

1 開会

2 協議（1）教育施策に係る意見交換について  
（2）その他

3 閉会

5 議事の経過

不嶋市長：（あいさつ）

- ・学校現場では先生方の多忙感が極限にあり、改善に向けた議論が各方面で行われている。
- ・今年8月30日に校長先生方との懇談をさせていただいた。働き方改革に関する話として、能登香島中学校では、授業準備にかかる時間や授業時数は世界と同水準であり、かつ学校運営に関わる事務処理の時間が多いことから、学校のあり方や働き方も含めて、国や教育委員会の責任も重いのではないか、というお話をさせていただいた。
- ・小学校では平成32年から、中学校では平成33年から新学習指導要領が実施されるが、先生方にはカリキュラム・マネジメントが課せられ、立場的に追いつめられるのではないかと気がかりに思っている。
- ・不登校対策についても県で議論されており、子どもたちも先生も孤立させずにどう支えていくか、学校の体質改善が必要と考える。

阿部学校教育課長：（働き方改革について現状と今後の展望を説明）

- ・市内小中学校における平成29年9月の月平均時間外勤務時間は、小学校は52.2時間、中学校は70.9時間。主な要因は、小学校では授業準備等や校務、学校行事等の準備であり、中学校ではそれらに加えて部活動指導が挙げられる。

- ・国では、教職員定数の改善、部活動指導員等の専門スタッフ・外部人材の拡充等の施策をとっている。県では、集合型研修の削減、組織的な学力向上システムの確立、学校訪問の見直し等を進めることとしている。
- ・七尾市教育委員会では、時間外勤務時間の把握と教員の意識改革を進め、タイムカードの導入も検討している。県が示す「学力向上ロードマップ」に準じ、先生方の校務分掌の平準化を図る。集合型研修や学校訪問の回数を減らし、学校の負担を軽減する。部活動では、週1回の休養日を徹底し、国が示す部活動指導員の導入も検討している。土曜授業は、今年度まで月1回（年平均8回）実施していたが、学校の主体性に応じ年3回以上の取組とする方向に転換する。

大森教育委員：

- ・そもそも多忙感があるのは悪いことか。ストレスのマネジメントにおいて、多忙であっても充実していればそれは喜び。自分が業務に対処できないことがつらいのではないか。単に時間に焦点を当てるのではなく、具体的なプロジェクトのもと対処する必要がある。

山下教育長職務代理者：

- ・県教育委員会連合会代表者会での話である。多忙感が話題となっているが、県内市町では先生の使命感とやる気を大事にしたいという一面がある。ワークシェアと多忙感の解消には難しい問題があり、それを前面に出すことで先生方のやる気が薄らぐのでは、ということが話題になった。
- ・英語の教科化や、プログラミング学習に力を入れる動きもあるが、今言われる多忙感の解消とは逆行しているような気がして心配である。
- ・市は、学校現場に高い専門性を求められていることを考慮し、取組が形骸化しないようにしなければならない。

寺岡教育委員：

- ・若い先生方が時間外に活発な議論を交わしているときに「そろそろ帰りましょう」と声をかけられ、物足りなく残念に感じたことがあったという話を聞いた。
- ・一番大切なことは、先生が、忙しくても元気に生き生きしていること。
- ・出口教育として、七尾に帰ってきて先生になりたいという子供を増やすには、先生が輝いている姿を見せるのが一番である。
- ・忙しい中でも子どもと向き合う時間を確保し、先生方への声かけなどをどのように行うかが根本として大切である。

石川教育委員：

- ・例として、私の職場では、声かけをして早く帰られるような雰囲気作りをしている。
- ・先生方の時間外勤務には個人差があるようだが、ウエイトの高いものから負担を軽減し、一方で先生方のレベルが低下しないよう、声かけをしながら徐々に時間外勤務を削減することが必要ではないか。

高教育長：

- ・メリハリが大切である。先生方の使命感や意欲を削ぐものではない。
- ・いわゆる定時退庁日を設けるなど、皆で取組むことで、先生方の多忙感も追いつめられたものにはならないのではないか。

不嶋市長：

- ・時間外のディスカッションについて、学校現場を離れて行うことや、議論に区切りをつけることでメリハリがつく。
- ・自分の力量を高めることに多忙感はないものと思うが、一方で組織として業務の平準化を図ることも必要である。

倉田七尾市小中学校校長会会長

- ・校務分掌にかかる事務、調査ものなどは電子化も行われており、先生方はそれほど負担に感じていないと思う。小学校では教材研究、中学校では部活動が主である。
- ・市から説明のあった施策を忠実に実行して行けば、先生方も働きやすくなると思う。

不嶋市長：

- ・教育内容は、時代にマッチしているのか。今ある仕事の49.1%がロボットに置き換わると言われており、子どもたちが教わってきたことがいざ働くときになって機能しない、ということにならないか気がかりである。

高教育長：

- ・英語は国際社会において必須であり、できるだけ小さいうちから身に着けるとよいという考えのもと行われている。また、県内にはプログラミングに力を入れて取り組んでいる自治体もあり、今求められているのはそういう力だと聞いている。

不嶋市長：

- ・人工頭脳やロボットは、対話や基礎的な計算などはできるかもしれないが、教育のあり方として、学習指導要領では80、100歳まで情緒感のある人生を送ることができるような内容になっているのか。

大森委員：

- ・国では学問のある分野を理系に特化するという方針だが、その次の段階があると思う。

不嶋市長：

- ・ロボットが仕事を行うようになれば、人手不足はなくなるのでは、とも思う。

高教育長：

- ・人と人のあたたかいコミュニケーションはとても大事である。道徳の教科化も決定されたところである。
- ・11月26日（日）に「ふるさと伝統芸能子ども発表会」が行われる。子どもが地域で居場所を見つける機会にもなる。

大森教育委員：

- ・生産性を上げる時代ではなく、情報化の時代になってきた。価値観が変わることは悪いことではないと思う。

不嶋市長：

- ・今日はありがとうございました。平成30年度に向けた施策、予算編成に向けて前向きな議論をしていただきたい。

楠企画財政課長：

- ・これをもって、平成29年度第1回七尾市総合教育会議を終了する。